

「ごみ」から学ぼう！

小学校4年生

I アクティビティについて

ねらい

「生活ごみ」の処理の仕方や、処理にかかわる仕事をしている人々の工夫や努力について調べたり、実際にごみの分別を体験したりすることを通して、家庭や地域社会の一員としての責任を果たそうとする態度を育てる。

◆◆◆視点◆◆◆

- ◎権利と責任
- 公平・公正
- 人間の尊厳・価値の尊重
- 参加・参画

設定の理由

この発達段階の児童は、学級における係活動や学校行事等における様々な役割分担を通して、責任を果たすことの大切さを学び、責任を果たした時の達成感などを体験している。しかしながら、集団生活や社会生活の中で責任を遂行することが持つ意義をかならずしも十分に理解していないため、自己の都合や興味・関心が優先されて、責任が放棄される場面も見られる。

そこで、児童にとっても身近な「生活ごみ」に関わる体験的な学習を通して、ごみ処理における自己の責任を自覚させることを手始めに、地域社会の一員として責任ある行動をしようとする意識や態度を育成したい。

アクティビティの概要 (5時間扱い)

活動1 「トライ！ごみの分別」を実施する。 1時間
 ・分別されていないごみの収集を疑似体験し、分別されている方が能率的に仕事が進むことを実感する。



活動2 ごみ処理施設見学 3時間
 ・ごみが処理されるまでの過程（ごみ集積所→ごみ収集車→ごみ処理施設）を見学する。



活動3 ごみの処理について、自分のできることを話し合う。 1時間

アクティビティの実際

- 準備するもの
 - ・ごみ袋
 - ・ごみ収集所の写真
 - ・数種類の「ごみカード」（各地域の分類方法に合わせて用意）

- アクティビティの進め方

活動1 「トライ！ごみの分別」

- ① 「トライ！ごみの分別」（疑似体験）のやり方を説明する。
- ② 児童を4～5人のグループに分け、様々なごみの種類のカードをシャッフルし、各グループに与える。

＜説明＞

- ・グループの中の一人が、カードを「燃えるごみ」「燃えないごみ」「ビン・カン」などに分別をしてください。
- ・終了したら、カードを一つにまとめてシャッフルし、次の人に渡してください。

- ③ 全員が分別の疑似体験をできるまで繰り返す。
- ④ 「トライ！ごみの分別」を行った感想を話し合わせる。

＜ふり返りの留意点と発問例＞

- 「トライ！ごみの分別」の体験をしての率直な感想を発表させることに重点を置き、自発的にごみ問題について考えるようになるのを待つことが大切である。

発問例 この活動をして、どんな感じがしましたか。

発問例 今はカードを使って模擬的な分別をしましたが、これが本物のごみであったとしたら、どうだったでしょう。

発問例 カンなどに飲み残しがあったり、生ごみの汁がしみ出していたとしたら、どんな感じがするでしょう。

発問例 もしあなたがゴミの分別をする仕事を担当するとしたら、ゴミを出す側の人たちにどうして欲しいと思いますか。

活動2 ごみが処理される過程の見学

① 見学する視点を話し合わせる。

— <見学する視点> —

- ・家庭からでるごみがどのように処理されるのか。
- ・どんな人たちが、ごみを処理しているのか。
- ・ごみを処理するために、どのような工夫がされているか。

② 学校の近くのごみ集積所を見学する。

※ごみが出されている様子や曜日ごとにごみの種類が異なることなどを調べられるようにする。

※ごみ収集車の回収時刻に合わせて見学するとよい。

③ 清掃センター（ごみ処理施設）を見学する。

※ごみが運ばれてくる様子や、焼却炉、リサイクル施設等の様子を見学させる。

※働いている方からごみ処理の工夫や問題点について話を聞けるようにする。

活動3 「ごみ減らし宣言」

① ごみを減らすために、自分にできることを話し合わせる。

② 自分にできる「ごみ減らし宣言」をさせる。

アクティビティを指導するポイント

- ◇ ごみの分別体験の時「分別しなくてもよいだろう。」という意見が出ても、すぐには否定せず、見学時の課題として取り扱うようにする。
- ◇ ごみ処理施設見学の時は、分別されたごみがどのように処理され、再利用されるのかをしっかりと見学させる。また、処理場の職員の方と事前の打合せを行い、分別の大切さや、ごみ収集所から回収・運搬をされている方々の苦勞などにも触れて話をしていただけるようにする。
- ◇ 本アクティビティは、小学校第3・4学年社会科「ごみと住みよいくらし」の学習と関連づけで実施し、「ごみを減らすために自分ができること」を考え、実践することでより効果が期待できる。

Ⅱ 授業展開例

～小学校4学年「社会科」における授業展開例～

時	学 習 活 動	教師の働きかけ
1	活動1 「トライ！ごみの分別」	
3	活動2 ごみが処理される過程の見学	
1	1 本時の課題を知る。	○自分でできることを中心に考えるように意識させる。
	ごみを減らすために自分のできることを考え、実践しよう！	
	2 ごみ処理に携わる人の願いについて考える。 ・爆発の危険があるのでスプレー缶は使い切って穴をあけてから捨ててほしいと言っていた。 ・リサイクルするためには分別が大切だと言っていた。	○地域の人々の健康な生活を守るために、ごみの始末と再利用が組織的・計画的に行われていることがわかる。
	3 自分でできることを考え、話し合う。	○ごみの出し方、始末や再利用の方法などについて、見学したり調べたりしてわかったことを、発表させる。 ○自分の家でのごみの分別や、学校生活での行動が変わるように、ルールを守り、責任を持つことの大切さを確認する。
4 自分にできる「ごみ減らし宣言」をする。	○宣言書に記入し、教室に掲示するようにする。	

Ⅲ 資料

(1) 見学メモ

<見学メモ>

家庭から出たごみは、どのように処理されているのだろうか。

1 ごみ収集所を見学して気づいたこと

2 清掃センターを見学して気づいたこと

